

令和四年度 一般選抜 小論文 出題の意図

問題文の出典：太田肇『同調圧力の正体』PHP 新書、2021年6月29日発行、PP14～19

限られた時間の中で、出題された長文を読み解きながら自ら思考し、それを論理的に表現できているかを問うものである。

設問1

- 1) 設問の趣旨を的確に捉えているか。
- 2) 課題の在所を把握し、適切に絞り込んでいるか。

設問2

- 1) 具体例と関連させて説得力をもって論じているか。
- 2) 文章を整然とまとめ上げているか。

※ この「出題の意図」についての質問及び照会には、一切回答しません。

令和四年度 山形県立米沢女子短期大学  
一般選抜 小論文 問題用紙

次の文章は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、改めて可視化された日本社会の「同調圧力」について論じたものである。この文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

【設問一】あなたの学校生活を振り返り、「同調圧力」について見聞きした事例について、二〇〇字〜三〇〇字で述べなさい。

【設問二】日本社会における「同調圧力」の良し悪しについて、あなたの意見を六〇〇字〜七〇〇字で自由に述べなさい。

別々の会社に勤める二人から、たまたま同じ内容の話聞いた。仕事に支障がないから在宅勤務をするよう、いくら周囲から勧められても頑として応じなかった同僚が、コロナ禍でテレワーク（※注）が推奨されるようになったとたん、まるで手のひらを返したようにパツタリ入社しなくなったというのだ。暗黙の行動規範がコロナ禍によって逆転した結果、彼らの行動基準も容易に逆転してしまったのである。

それだけ職場はみえない圧力に覆われているということだろう。ではテレワークによって職場の圧力から解放されたかというところ、そうではない。テレワーク中も上司に監視されているとか、同僚が出社していたら罪悪感を覚えるといった声も聞かれる。リモート会議では役職順に画像を並べるといった新たな慣習をばからしく思いながらも従わざるをえず、頻繁に開かれ、しかもエンドレスに続く「リモート飲み会」に閉口する人も多かった。

またコロナ禍のもとでは学校や地域の運動会、花見、祭りなどありとあらゆる行事が軒並み中止に追い込まれ、マスクをつけずにランニングしたり自転車に乗ったりするだけでも冷たい視線を気にしなければならなかった。

私たちだけではない。芸能人やプロスポーツ選手は自粛期間中に友人と食事をしただけで、プライバシーをさらされたうえ、まるで犯罪者のようにバッシングされ、記者会見を開いて謝罪し、謹慎させられる羽目になった。もはや有名人だから、実力主義の世界だからといっても、それが免罪符にはならないことを思い知らされたはずだ。どうして私たちは、どこまでも同調圧力につきまとわれなければならないのか。

しかし、いっばうで私たちはこのような同調圧力の恩恵を受けているともいえる。世間の同調圧力があつたからこそ、欧米のようなロックダウン（都市封鎖）を免れたし、法による厳しい取り締まりも必要としなかった。さらに「自粛警察」や「マスク警察」も騒がれた割には「出勤」件数が少なかった（だからこそ話題になったのだ）。そして因果関係ははっきりしないものの、新型コロナウイルスによる死者や重傷者の数は、欧米と比べ桁違いに低い水準に抑えられている。

功と罪のどちらかが大きいかという評価はとりあえず措くとして、降つてわいた新型コロナウイルスの蔓延により、私たちは日本社会の同調圧力がいかに強いかをあらためて考えさせられた。（中略）

コロナ禍のもとで日本社会の同調圧力に関心が集まり、いろいろな場で、さまざまな人から同調圧力の弊害や問題点が指摘されるようになった。その多くは同調圧力を日本社会の風土や日本人の特性としてとらえている。たしかに同調圧力そのものはどの国、どの社会にもあるとはいえ、そこに日本社会特有の何かが存在することは否定できない。しかし漠然とした風土論や日本人論で片づけていては議論が前に進まないし、そこに問題があるとしても対策を講じることができない。

だいじなのは、まず同調圧力の正体を明らかにすることだ。そのためには抽象的でつかみ所のないものより、できるだけ具体的に比較可能なものに注目する必要がある。仕組みに注目すると、社会の中での位置づけも、規模も、歴史も異なる組織や集団に共通する特徴がみえてくる。

同調圧力は小ささまざまな共同体の中で生じる。同僚どうし、あるいはクラスメートや地域住民の集まりならともかく、会社や学校、それに国や地方自治体などは本来、共同体ではない。ところが日本では、それらが共同体的な性質を併せ持つ

ていて、レベルの違う共同体が入れ子状態になっている。たとえば国の中に地方自治体があり、その中に町内会がある。あるいは学校の中にクラスがあり、会社の中には部・課があり、その中にグループがある。そして一般的に言えば、内側の小さな共同体ほど同調圧力は強くなる。

※注 テレワーク：固定された場所と時間に基づく働き方に対して、ICT（情報通信技術）を活用することによって、働く場所と時間を働く人が柔軟に選べるようにした働き方。

（太田肇著『同調圧力の正体』（二〇二二年 P H P新書）による。設問の都合上、一部改変したところがある。）